様式3

学 校 番 号

57

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立武蔵台高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	校是「継続は力なり」、スローガン～明るく、楽しく、いきいきと～のもと、生徒に高い志（進路意識）を持たせ、学力向上・進路実現を目指す。		
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
十分な感染症対策を行いながら全ての学校行事を行うことができたことが大きな成果である。 課題としては、職員間や分掌間の意思疎通が不十分で組織的な取組ができておらず、業務を個人や分掌が抱え込む傾向にあった。	ICTを活用した授業改善と反転学習を通した **『学力向上』**	●ICTを活用した双方向の授業を展開し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 ●Classiを利用した反転学習を通し家庭学習を充実させ基礎学力を定着させる。	
	特別活動や部活動等を通した **『生徒の自主性の育成』**	●学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動や部活動で生徒が自発的に行動する場面を設定する。	
	「総合的な探究の時間」の計画的な実施を通した **『高い進路希望の醸成』**	●「総合的な探究の時間」でキャリア教育を計画的に行い生徒に高い進路希望を持たせる。	

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	基礎学力の定着	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒主体の学習活動を重視した授業を推進する。				
			分かりやすい授業・学習意欲を喚起する授業のために、ICT機器のさらなる活用を促進する。また、タブレット端末を用いた家庭学習の指導体制を確立する。				
			成績不振者に対して1・2学期末考査前に特別補講を実施し、基礎・基本を徹底させるとともに、学習方法を身に付けさせ、家庭学習の定着を図る。				
			生徒の学力実態の変化に応じて週末課題や考査の範囲を工夫し、予習・授業・復習の学習サイクルを早期に習慣化させる。				
		授業規律の確立と学習環境の改善	「5分前行動」「提出期限厳守」の習慣を身に付けさせ、時間に対する意識を向上させる。				
			「机上・荷物の整理整頓」「黒板の清掃」を始めとして教室内の美化指導を徹底し、学習環境を整えさせる。				
			「始業時の黙想」「挨拶」を徹底し、学習に取り組む姿勢を向上させる。				
			教師・生徒間の信頼関係を基本とし、生徒が毎日登校して授業をしっかりと受けることができるよう指導する。各学年の出席皆勤半数以上を目標とする。				
		校務の円滑化	校務支援システムを用いて効率的な成績処理を行う。				
			日々の時間割変更を各教科担当の協力のもとで確実に行い、円滑化を図る。				
			行事予定については、各学年・分掌と連携し「授業時数の確保」と「学校行事を通した生徒の成長」の両立を目指してできる限り柔軟に対応する。				
			新しい時制や教育課程の実施初年度にあたり、校務運営上の課題を整理・分析し、次年度の改善へつなげる。				
	企画広報課	各方面との連携・調整、各行事の企画及び円滑な運営	各部・各学年・PTA・同窓会との連携を図り、入学式・PTA総会・卒業式等、主要学校行事に関する要項を迅速に作成・配付し、行事の円滑な運営をサポートする。				
			2ヶ月分の行事予定表を提示・配付し、様々な行事に関して共通理解を全職員と図るとともに、生徒・保護者・食堂への周知を図る。				
			各会議の会議録を保存し、会議欠席者へ会議内容を提示し、全職員が共通理解を図ることができるようにする。				
			進路部・学年と連携し、適宜奨学金の案内を行う。				
		本校の教育活動の積極的な発信	中学校訪問で担当者が積極的に情報を発信できるように、各部と連携して担当割や訪問マニュアルを作成する。				
			PTA新聞「弘報『天拝』」をPTA広報委員会と協力して年間3回発行する。				
			本校の志願者増につながるように、魅力が伝わるパンフレット・ポスターを作成する。				
		職場環境の整備・向上	新転任者オリエンテーション・送別の会を計画し、各部と連携して実施する。				
			職員の机・レターケース・ロッカー・靴箱等の配置を計画し、第2応接室・男女更衣室の整理・整頓を呼びかけ、環境整備に努める。				

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒部	生徒指導課	学習環境の整備と学習規律の確立を徹底させ、安全・安心な学校生活を送るための基盤の形成を目指す。	生徒や保護者へ生徒心得の周知を図り、集団生活のルールやマナーの指導を継続して行う。						
			ロッカーを活用した貴重品や教材等、自己の身の回りの管理能力の育成を図る。						
			全職員で生徒指導にあたるため、生徒指導課が中心となって生徒心得に関する共通認識を図り、風紀指導にあたる。						
			個別の対応が必要な生徒については、生徒支援委員会と連携を図り、学年や担任と情報共有を行いながら迅速に対応する。						
		学校行事やホームルーム活動、生徒会活動、部活動を通して、双方が充実した学校生活を送るために必要な人間関係の構築を目指す。 また、地域社会に貢献する生徒の育成を目指す。	生徒が行事運営や有意な参加をすることができるように、生徒との綿密な打ち合わせや支援を通して生徒会や各行事実行委員会でのリーダー育成を行う。						
			天拝小学校との合同挨拶運動を年3回実施する。また、天拝小学校サマースクールへの参加及び交流を7月末に実施して、両校間の交流を図る。						
			部活動加入率80%以上を目指す。また、部活動退部率を減らすため、部活動内でのトラブルを未然に防ぐための体制づくりを支援する。						
			SNS使用上のルールやマナーの注意喚起を継続して行い、人間関係のトラブルを未然に防ぐ。						
		学校生活のあらゆる機会を通じて、生徒の安全管理、危機管理能力、危機対応能力の育成を目指す。	交通安全委員会の活動をより一層活性化させ、本校の事故発生状況の周知徹底、安全指導を 年3回以上行う。						
			交通安全教室の実施を通じて、登下校時のスマートフォンの利用マナーや自転車乗車中のヘルメット着用率の向上を図る。						
			交通事故や交通違反、交通マナーに対して、担任と連携をとりながらHR等を活用し迅速に対応する。また、保護者への連絡を含めて、当日中に対応を行う。						
			全校集会や学年集会、Classiによる配信で交通ルール・マナーの指導を年3回行う。						
	保健環境課	校内美化とゴミの持ち帰りの推進を通じて、愛校心や公共施設を大切にする心を養う。	ゴミの持ち帰り・古紙回収の推進を行う。						
			美化週間の実施を通して美化意識の向上を図る。（1・2学期実施）						
			職員の、清掃に対する意識向上を図るために、研修や広報の工夫をする。						
		教員と生徒との信頼関係を確立する支援を行う。	生徒支援委員会を年20回以上行う。						
			学年会・生徒指導課会と生徒支援委員会との情報交換・支援を行う。						
			スクールカウンセラーを活用し、生徒の抱える問題の深刻化を防ぐ。						
		危機管理体制の充実を図り、学校生活における事故を防止する。	危機管理体制の充実のため、予告なしの防災避難訓練を計画し、日頃から避難方法、避難経路を意識させる。						
			宿泊研修や行事前に「健康相談」を実施し、事故防止に努める。						
			職員が体の調整方法などを学び、感染症対策に取り組む。（密を避けた食事・手洗い・換気の徹底）						
			危機管理マニュアルの作成と安全点検を3回以上実施する。						
		生徒の基本的生活習慣の確立を目指し、健康管理に努めさせる。	保健委員会の活動として、保健だより及び掲示資料作成を合わせて10回以上行う。						
			保健委員会の研究・ベルマーク活動を今後も継続して行う。（学校保健会・天桜祭発表）						
			Classiによる健康チェック入力の徹底や、免疫力低下の生活習慣改善に努めさせる。						
進路部	進路指導課	＜1年＞ ①幅広い教養を身に付けさせることにより適正に文理選択をさせる。 ②振り返りの習慣を身に付けさせる。	文理選択説明会、好学プロジェクト大学研究を通して、進路選択、文理選択の適正化を図る。						
			Classi, ハイスクールオンラインなどのオンラインコンテンツを活用し、模試の事前指導、振り返りを充実させる。						
			日々の学習記録、イベント毎のポートフォリオをClassiに蓄積させることで生活を振り返る機会を作り、起床時間・勉強時間・就寝時間の三点固定を確立させる。						
			好学タイムを有効に活用し、「自己管理の時間」として生徒主体で位置付けることで、自発的に生活する生徒を育成する。						
		＜2年＞ ①学問分野研究を行うことにより、志望校の絞り込みを行わせる。 ②他分掌との連携を密にしてポートフォリオを蓄積し、自己の強みに目を向けさせる。	キャンパスワークショップを通じて、それぞれの大学の特色や魅力に目を向けさせ、進路意識を醸成する。						
			模試の成績表の見方や、復習の重要性、志望校合格ラインと自分の模試結果の差を理解させ、見通しを持って2年3学期を迎えることができるようにする。						
			日々の学習記録、イベント毎のポートフォリオをClassiに蓄積させることで生活や、自己の強みを考える機会を作り、進路実現に向けて「自走」できる生徒を育成する。						
			大学入試における英語資格検定取得のメリットを伝え、英語科との連携により英語検定受検を奨励し、受験生としての意識涵養の一助とする。						
		＜3年＞ ①個々の生徒に応じた進路・受験方式を提案し、進路希望を達成させる。（福岡大学　実数　100名） ②自己表現力を身に付けさせる。	進路検討会議を年3回実施し、個々の生徒に応じた適正な進路を提案する。希望進路・受験方式に応じたガイダンス・指導を充実させ、生徒の進路希望の実現を支える。						
			年5回の模試の意識付けを徹底し、時間配分、計画的な対策学習、振り返りを充実させる。						
			日々の学習記録、イベント毎のポートフォリオをClassiに蓄積させることで生活の見直し、自己分析をする機会を作り、進路を主体的に考え、行動に移す生徒を育成する。						
			夏期補習（希望制）、冬期補習（全員参加）の実施、3年放課後課外の工夫により、生徒の基礎学力の向上と希望進路に応じた指導を充実させる。						

	ユネスコ課	〈総合的な探究の時間〉 探究の過程を通じて、生徒が探究の意義や価値そのものを理解することを目指す	1年の課題研究については、自己と地域社会をテーマとして探究活動を行う。						
			2年の課題研究については、国際理解や持続可能な開発目標に関する研究テーマを生徒それぞれが設定して探究活動を行う。						
			3年の課題研究については、地域創生の探究活動を行うとともに、自らの進路目標に関連した個人研究を行う。						
			chromebook等のICT機器を用いてデータの収集・整理・発表を効果的に行う。						
			classiポートフォリオを運用して、体系的な探究活動を目指す。						
		〈ユネスコスクール活動〉 地球規模の諸問題、人権及び民主主義、異文化、環境、地域・歴史教育を柱に、国内外の学校との交流を通して、情報や体験を分かち合うことを目指す	ユネスコ委員会を中心に本校のユネスコスクール活動を活性化する。						
			ユネスコ部の対外的な活動（SDGsコンテスト、模擬国連大会等）を活性化する。						
			校外の機関や、大学との連携をとりながら、国内外の学校間連携を目指した事業を展開する。						
			「服のチカラプロジェクト」「寺子屋プロジェクト」「ペットボトルキャップ回収」等の活動を継続して実施する。						
		地域社会の中核を担う人材を育成する。	探究活動を通じて地域への興味・関心を深める。						
			日常生活に課題を見いだし探究した事柄を地域に発信する。						
u7	研修課	本校の課題に沿った効果的な研修を企画し実施する。	各分掌や学年と連携し、本校教育活動において有効な校内研修ができるよう、内容や妥当性をよく吟味し、研修の企画立案を行う。						
			基本研修で研鑽を積まれた先生方による報告会を実施し、教育センターや教育委員会で得た教育情勢や教育情報の共有を図る。						
			授業参観週間や研究授業を実施し、ICT活用の推進、観点別評価の研究を目指し、多面的な授業研修を実践しながら、授業改善を充実させる。						
		感性豊かで思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。	生徒課や保健環境課など、他の分掌との連携を密にし、特別支援や安全対策などに関するすぐに活用できる研修を企画する。						
			生徒の実態等を考慮した人権・同和教育授業を行い、生徒の人権意識を高めるとともに、教師自ら日頃の教育活動の中で人権意識の啓発を指導する機会を作る。						
			図書館の広報活動に努め、読書会や図書館祭などの読書の啓発を促進する機会を企画し、読書を通じて心豊かな人間形成を図る。						
	ＩＣＴ課	校務用ネットワークと校務用パソコンのセキュリティ管理と円滑な運用	校内の情報機器・校務用パソコン・ネットワーク（ハードウェア）、ソフトウェアの管理を徹底する。						
			県から依頼される調査・統計を確実に行い、学校宛(info@musashidai)に届くメールのチェックを定期的に行う。						
			武蔵台CH.の保守・管理を確実に行い、要請に応じて武蔵台CH.での校内配信を行う。						
		Chromebookの保守・管理と円滑な運用	生徒アカウントの管理を確実に行う。						
			Chromebookを用いた新しい授業のための職員研修や、情報教育の推進を行う。						
			生徒用・教員用のChromebookの管理・保守などを確実に行う。						
		情報発信の活性化	Instagram を用いて、中学生を対象とした情報発信を行う。最低週1回を目標とする。						
			ウェブページに掲載する記事を集める仕組みを構築し、迅速な記事の更新を行う。年間50回の更新を行う。						
			校務支援システムの円滑な運用のために、教務課と連携する。						
			634ニュースを毎月発行し（年8回、4月、8月、3月を除く。1月と2月は合併号）、進路選択の一助となるようにする。						
			Classiによる生徒や保護者への情報発信、Classieを用いた反転学習の方法を工夫し、Classieを十分に活用していく。						
	第一学年	学習習慣の確立と進路目標の明確化を図り、将来への視野を広げる	Classi を活用しデジタルコンテンツによる反転学習を通し基礎学習を定着させるとともにICTを活用し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。						
			授業に対して真摯に取り組む姿勢を涵養する。また、適切な内容と分量を考慮することにより、週末課題を充実させ学習習慣の定着を確立させる。						
			進路学習を通して文理コース選択について的確な指導を行う。また、好学プロジェクトやユネスコ講演会を通して、将来像をイメージさせることで進路目標を明確にさせる。						
			校外模試の対策と事後指導に取り組むことで進路意識を向上させる。						
		規律ある生活習慣の確立と規範意識の醸成する	家庭との連携を図り、出席皆勤（200名以上）を目指させる。また、二者面談やH.R.活動を有効活用し、個に応じた指導を行うことで転退学者0を目指す。						
			教科担当と担任が情報交換を密にすることにより、課題や提出物等について期日までに100%提出を徹底させる。						
			挨拶の励行と、高校生らしい言動を心掛けさせる。また、清掃を徹底させることを通して、学習環境を整えさせる。						
			日々の学校生活を通じ、時間や校則を守る意識を育て、交通ルールやマナーを遵守する態度を育成する継続的な指導を行う。						

学年経営部		武蔵台高校生としての自覚をもたせ、所属意識、連帯感を高揚させるとともに、学校生活のあらゆる場を通して人権意識を涵養し、心身の健全な発達を図る	学校行事・委員会等への積極的参加を奨励させ、達成感を味わわせる。また蒼武祭、天桜祭を通してリーダーを中心に活動させることで学年、クラスの連帯感を高めさせる。				
			生徒支援委員会・学年・部活動顧問と連携することで生徒の情報の共有に努める。また、部活動加入率80％以上を目指し、文武両道を実践させる。				
			「総合的探究の時間」の天拝山登山や太宰府研修を通して、地域の歴史や文化への理解を深めさせ郷土を愛する意識を育成する。				
			学年集会やH.R.においてスマートフォンの正しい活用について指導するとともに、学校生活全般を通じ、他者を敬う態度を育成し、いじめ0を目指す。				
	第二学年	好学 進路学習や学年行事の取り組みを通して進路目標を明確にし、目標達成のための学習習慣を確立させる。	キャンパスワークショップなどの進路研究や探究活動を通じて、進路目標を確立させ、入試や就職試験に対する意識向上を図り、模試や資格取得に計画的に取り組ませる。				
			Classiと手帳の活用を進め、模試の分析や探究活動の記録を蓄積させ、将来の進路への見通しを立てた活動をさせる。				
			日々の授業における取り組みを重視し、生徒の理解度に合わせた指導を充実させ、生徒の基盤となる学力向上と学習習慣の確立を図る。				
			基本的生活習慣を確立させ、年間皆勤者180名を目指す。				
		自主 学校の中核となる自覚を持たせ、学校生活のあらゆる場面で主体的に行動するリーダーとなる生徒の育成を行う。	凡事徹底の下、日常における挨拶や清掃活動を大切にし、44期生の手本となる意識を持ち、リーダーとしてのあり方を行動で示す姿勢を定着させる。				
			授業や集会の開始時間を厳守し、活動に集中できる環境づくりを自ら作らせる。				
			学校行事（文化祭、体育祭、冬期集団合宿研修）や部活動を通して、自ら考え、協働して取り組み、学校の中核となるリーダーの育成を行う。				
			より良い学校のあり方を自ら考え、様々な役割を協力しながら取り組み、生徒会・委員会活動の活性化を図る。				
		敬愛 学校のあらゆる場面を通して人権意識を涵養し、自他尊重の精神を基盤として、行動にうつすことができる生徒の育成を図る。	人権学習の機会だけでなく、あらゆる機会を通して、学校生活の中で他者を敬う態度やいじめを許さない意識を涵養する。				
			生徒支援委員会・学年・部活動顧問と連携し、情報の共有に努め、組織的に動くことで迅速な対応を行う。				
			学年集会の指揮や学校行事の企画、運営に生徒自ら取り組ませ、集団の中で互いを尊重して行動するフォロワーシップの精神を育成する。				
			学年通信の定期的な発行（5回）と家庭との適切な連携により情報共有を密にし、協力体制を構築する。				
	第三学年	最高学年としての自覚を促し、自他尊重の精神を基盤としたリーダーを育成することで、自らの進路実現に向けて主体的に学習に取り組む態度を向上させる。	時間の厳守。				
			ICTの活用。				
			学校行事、部活動、生徒会活動の充実。				
			学期に1回以上、生徒との面談の実施。				
		学校行事、部活動、生徒会活動を通して、規範意識とモラル、人権に対する意識を高めることにより、社会人として生きていくうえで必要な他者との共存、協働の基礎、基本を身につけさせる。	生徒主導による行事の企画運営。				
			所属する部だけでなく、他の部活動との交流、応援等を積極的に推進する。				
			クラッシー等によるいじめアンケート、生活アンケートによる生徒の現状把握を密に行う。				
			気持ちと行動の切り替えのため、学校行事、模試等の総括を学年集会で共有する。				
		進路目標の第一希望実現に向けて、粘り強く諦めない生徒を育成し、生徒一人一人が満足できる進路実現を目指す。	生徒の目標に寄り添った進路指導。				
			模試結果や考査結果を踏まえた個人面談の充実。				
			変化する大学入試や各種資格試験、就職試験に対する情報の収集と研究。				
			三者面談を活用し、学校、生徒、家庭の連携を充実させる。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見